信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	**ヒマラヤ横断フィールドワーク**	
学部・研究科名	理学部・地質科学科	
実施期間	2016年3月4日～3月18日	
研修先(国・都市・施設名)	ネパール(カトマンズ・ポカラ・ジョムソン)	
参加学生数　：　6名		知の森基金からの支援者　：　6名
プログラム概要	ヒマラヤ山脈は世界最大の山脈であり，大陸形成の様子を保存する地球科学的に最も重要な研究対象の一つである。このプログラムでは，ゴンドワナ地質環境研究所・ネパール・トリブバン大学地質教室共催「ヒマラヤ野外実習ツアー」に参加し，中央ネパールのヒマラヤ山脈を徒歩9日間かけて横断し，巨大山脈の形成の歴史とメカニズムを理解することを目標とした。ツアー前には3回の学習会を開催し，入念に事前学習を行った。ツアーの前後にはネパール・トリブバン大学学生との交流会を用意し、英語での自己紹介などを課した。帰国後はレポート作成によって，現地フィールドワークを振り返り，野外での経験・知識の定着を目指ざした。 現地では，ゴンドワナ地質環境研究所・吉田勝氏(大阪市立大学名誉教授)とトリブバン大学のスタッフが，フィールドワークの全日程の引率を行った。	

実施状況・成果

ツアー中の事故や停滞はなく、すべての予定を無事に完了できた。巡検中は車酔いなどで体調を崩しかけた学生もいたものの，重症には至らずに済んだ。ツアー後に提出されたレポートでは、ヒマラヤの雄大な景観に感銘を受けたことや、将来の勉強への意気込み，英語への親近感を感じたことを述べた学生が多く，非常に満足したとの意見が多かった。また，トリブバン大の学生とのコミュニケーションは大きな刺激になったと思われ，自分の英語力の問題点を認識することができたとする学生も多かった．天候変化の厳しいヒマラヤ高地での巡検では、日本人学生とネパール人学生同士が助け合い、お互いに協力しあったことも、大きな充実感としてとらえられたようである。また，他大学からの参加者(総勢15名)とも円滑なコミュニケーションを取ることができ，さまざまな意見や見方を知ることができたことも非常に良い経験になったと思われる。一部の学生は，巡検途中に訪れた村での人々との交流について大きな感銘を受けたことを記している。

出発前には3回の事前学習会を設けたが、昨年度に当巡検に参加した学生からのアドバイスを聞くことができ，フィールドワークにむけて能動的かつ非常に充実した学習会が実施できた。また，主催者および大学側責任者（吉田孝紀）と学生との連絡はメールによって行われたが、参加者を少人数に絞ったこともあり，円滑な連絡・運営ができた。

このように比較的少人数の海外ツアー研修であったため、参加者個人は充実感を感じて研修は終了した。また、現地の大学生との交流会は非常に刺激になったことがうかがえ、この研修での大きな成果の一つとなった。これらの取り組みを通して，参加学生は海外での活躍にいっそう夢を膨らませ，国際人として活動する楽しさやそれに必要な学習の大切さを認識したと思われる。このようなやる気を育てる取り組みを拡大し，更なる飛躍を目指す機会を増やす必要性を感じる。また，海外での活動にチャレンジする学生そのものをふやし，国際的な活動を目指す気概を醸成する工夫も必要である。これらの建設的な問題点の発見も，今回の研修における成果といえる。

学生の声①－理学部　学生

ネパールの方々はとても優しかった。会話は英語になるのだが、私の英語は発音も文法もひどいものだった。しかし、彼らはこちらの意図を汲み取ろうと努力してくれた。ツアー前半は話すことができなかった私も、後半には英語に親しみを持ち、わずかだが英語ができるようになっていた。英語を話すことはより多くの人との交流を可能にする素敵なことなのだと実感するとともに、自由に楽しく会話するために、またはより多くの勉強をするために英語に取り組まなければならないと感じた。

学生の声②－理学部　学生

このツアーに参加して，ネパールで充実した時間を過ごすことができた。特にツアーに参加した地質を学ぶ全国の学生やネパール人との交流は貴重な時間となり，考え方など自身に大きな影響を与えた。今まで自身にとって未知の国であったネパールの文化に直接触れることができ，とても有意義であった。もっともっとネパールについて知りたいという欲求がわいてきた。そして，必ずまたネパールへ行くことになりそうである。そのときには，交通事情や衛生事情になにか変化は起きているのだろうか。ネパールが今後どのようになってゆくのか楽しみである。

ネパールの子どもと一緒に(ジョムソンにて)

２０億年前の地層の見学(クンチャ付近)